

会議要録

会議の名称	酒田コミュニケーションポート（仮称）整備検討委員会（第1回）
開催日時	平成28年5月17日（火） 午後2時30分 ～ 午後4時40分
場 所	酒田市役所本庁舎3階 第二委員会室
出席者	<p>○出席委員 矢口 明子 委員（委員長）、小田島 健男 委員（副委員長）、 片桐 晃子 委員、久木原 満 委員、齋藤 一男 委員、 佐藤 晶子 委員、高橋 利春 委員、田代 典子 委員、 中原 浩子 委員</p> <p>○欠席委員 佐藤 真美 委員、平尾 清 委員</p> <p>○事務局 中川企画振興部長、大石教育部長、阿部都市デザイン課長兼図書館主幹、 阿部図書館長、岩浪図書館副館長、長尾観光振興課長補佐 （都市デザイン課） 高橋課長補佐、本間主査、土井係長、相馬主任、高橋主任、今井主事</p>
<p>1 開 会（事務局）</p> <p>2 委嘱状交付（市長）</p> <p>3 あいさつ（市長あいさつ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の整備の委員会で本日のように女性委員が多いのは珍しいかもしれない。女性の感覚や意見を大事にしていきたい。 ・駅前の整備は酒田市の長年の懸案であった。駅前の整備については、事業者選定委員会を立ち上げ、どの事業者の提案がベストなのかを審査していく。本日集まっていた委員の皆さんには、市街地再開発事業の計画の中に導入するコミュニケーションポートという公共施設のあり方について、意見伺いながら基本計画を策定してもらおうのが目的である。 ・ライブラリーセンターを中心とした機能を盛り込みたい。私の思いも少しあるが、ただ単に現在の図書館を移転するのではなく、酒田ならではの、特に人と人とが交流して磨ける交流施設を目指したい。磨くための材料の一つとして図書があると思っている。最終的には磨かれた人間が産業を興したり、子供を育てたり、市政に参画したり、団体を作ってアクションを起こすなど、担い手になってもらえるようなものとしていきたい。 ・ポートとは、湊町酒田のイメージを具現化したいという思いや、コンピューターのインターフェイス部分のことも指すことから、人や物の出入り口、情報発信の場としての機能も持ってほしいという思いが込められている。 ・これまでの公共施設のイメージにとらわれず、市を越えて広域で様々な人が集まる施設になってほしい。先ほども言ったが、駅前の整備については長年の懸案事項。平成32年度までには市民と市が思い描く、にぎわいをもたらす施設を作っていきたい。その中の中核を担うコミュニケーションポー 	

トの基本計画についてご支援をお願いしたい。

4 委員紹介（事務局）

5 委員長及び副委員長の選出

○委員長・・・矢口副市長

（委員長あいさつ）

○副委員長・・・小田島委員

（副委員長あいさつ）

6 議 事

(1) 委員会の運営について（資料に3に基づき事務局説明）

委員長

- ・原則（会議は）公開ということによろしいか。

各委員

- ・異議なし

(2) 酒田駅周辺整備事業の経過等について（資料4-1、4-2、4-3に基づき事務局説明）

委 員

- ・委員の委嘱期間である、計画の策定が終了するまでとはどれくらいの期間か。

事務局

・資料5-1に委嘱期間を記載しているが、28、29年度の間となる。当面は基本計画を12月くらいまでに策定し、その後実施計画の策定をしていければと考えている。

委 員

・これだけの量の資料を確認して意見を即座に出していくとなると、かなり会議に時間をとらなくては行けないと思う。また、6月12日に公開プレゼンテーションということで、非常に時間もタイトである。資料を確認してから会議に参加したいので、資料は極力事前配付をお願いしたい。

事務局

- ・可能な限り会議の前に出せるよう努めていく。
- ・公開プレゼンテーションまで日程がタイトという意見が出たが、基本的には、ハードとソフトは分けて事業者を選定する。事業者選定とソフトの基本計画策定は平行して進めていくが、ハード事業者決定後に、ハードの基本設計の段階でソフトでの意見を反映させていきたいと考えている。

委 員

・ハードとソフトを分けて進めるということだが、ソフトの中身が決まる前にハードの事業者が決まるのは疑問を感じる。ハードとソフトに関係なく、情報に関しては先に提供してもらえればありがたい。

委員長

- ・意見として承る。

委 員

・コミュニケーションポートの5つの柱が決定なのは理解した。広さに関しては若干の変更は可能なのか。

事務局

- ・（ハードでの）提案事業者5者に対しても公共施設部分について面積等の提示をしている。提示され

た規模での整備をお願いしているため、大きくする変更は難しい。中の配置や少々の面積に関してなどは変更可能と考えている。

委員

・資料4-3の図でみると、酒田市の整備方針に反映されるとある。市民ワークショップや各界との意見交換会を実施し、そこで出た意見を酒田市が集約することだが、論点のずれた話し合いにならないためにも、集約した意見を本委員会にフィードバックする仕組み作りは可能か。

事務局

・次の資料5にあるとおりであるが、市民ワークショップや市民アンケート、意見交換会などを予定しているが、本委員会のみなさんからもワークショップや意見交換会に関わっていただければと思う。
・補足だが、市民ワークショップや市民アンケート、意見交換会で市民の意見を集約するが、基本的に本委員会へ出すつもりでいる。

委員

・ソフトの中にも観光や図書館、子育て、産業活性化、交通を含めたまちのランドデザインなど多種多様な機能が必要になってくる。もっと細分化した専門分野に見識のある人たちからも、意見を聞いて補強していくという方法を市では考えているか。先ほど市長もおっしゃったように、子育てなどの機能を入れた新しい図書館像を考えたときに、その施設をどうしたらいいのか、運営はどうしたらいいのかについて話すことができ初めてハードがソフトになると思う。有識者の意見は各界との意見交換会のみという形になるのか。

事務局

・委員のみなさんだけでなく、駅前をよく利用する人（高校生など）の意見を吸い上げて、本委員会でも披露していく。他の各団体とも意見交換をしていきたい。本委員会内で専門家の方を呼んで意見を伺いたいとの要望があればその機会を設けたい。

委員

・ライブラリーセンターが中核となってくると思うが、市が新たな図書館構想をどのように構築して、現状の図書館の問題とどう噛み合わせて移転していくのか伺いたい。

事務局

・移転構想が決まったばかりであるため、皆さんの意見を含めて新しい構想を考えていきたい。将来を見据えた図書館づくりについてはまだ勉強中。

委員

・図書館を作ること自体が目的なのではなく、人と人をつなぐツールの一つとしてライブラリーセンターや観光情報センターがあると考えていいか。

事務局

・先ほど市長も言っていたように、今の中央図書館をただ移転するわけではない。図書館機能はライブラリーセンターに設けながら、従来の図書館の枠を越えた形で人材育成や交流の促進となるような機能を持たせていきたいと考えている。

(3) 酒田コミュニケーションポート（仮称）基本計画等策定の検討体制について（資料5-1, 5-2に基づき事務局説明）

委員

・市民ワークショップの開催日程について、平日の昼間は参加できない人（働いている人など）が多いので、いろいろな人が参加できるよう土日に開催してもらいたい。

事務局

・平日の夜や土日などの参加しやすい日程に開催していく。

委員

- ・再開発事業予定者の選定基準について聞きたい。

事務局

- ・ハードの事業者選定の基準については、別途資料を送らせていただく。HPにも公開はしている。

委員

・再開発事業のプレゼンテーション及びその選定基準の中には、ソフトの部分入ってくるのではないか。本委員会ではハードとソフトの住み分けを説明して欲しい。

委員

・駅前施設の核は図書館。従来の図書館だけでなく、さらにプラスの機能を持たせたい。いま図書館には多種多様なニーズがある。静かに本を読む場だけでなく、情報発信や情報提供の場ともなっている。それに加え、知的刺激や交流の場としての機能も求められている。例として、ツタヤが指定管理者として入っている多賀城市の図書館はとてにぎわっている。市のライブラリーセンターの理想像があれば教えてほしい。

事務局

・従来の図書館の機能に加え、新しい使い方ができればと思う。ライブラリーセンターを中心に人のにぎわい、情報や人の交流の場としていきたい。先進地事例の多賀城市なども視察先となっているため、参考としていただきたい。

・図書館の基本機能だけでなく、常連の人や今まで利用していなかった新しい人の様々なニーズにも応えていけるような施設にしていきたい。

委員

- ・市民アンケートはどのように実施するのか。

事務局

・無作為抽出で2,000名にポストインする。その他、図書館内において利用者アンケートや市内要所にアンケートを置いて、興味のある方や回答したい方がいつでも答えられるようにする。

(4) 基本計画での検討事項（案）について（資料6に基づき事務局説明）

委員

- ・次回の委員会の開催日時はいつか。

事務局

・第2回は6月22日(水)13時半からを予定している。第3回では、7月上旬に先進地事例視察をできるよう日程調整している。

委員

・資料4-2について、資料6には記載していないライブラリーセンターの整備目的の欄で、蔵書数の増加や企画展示、学習室、レファレンス、ビジネス支援等と書かれている。学習室とレファレンスの機能は近年入ってきていると思う。いまの中央図書館は手狭という意見も出たが、何年か前から光丘文庫の2階でも学校終わりに学生が勉強している。静かに勉強したい人や情報交換したい人、アートを楽しみたいと思う人がいれば対応して欲しいと思う。一番聞きたいのは、資料に企画展示と記載があるがどういうものを考えているか教えていただきたい。

事務局

・具体的には決めていないが、平成27年度より企画展示を小さい規模でだが行っている。移転したら規模を広げて、本だけでなく美術品などの展示や光丘文庫の中の蔵書などの企画展示をできるスペースができたと思う。交流スペースや学習室など静かに過ごしたい人と話したい人との住み分けをしていきたい。

委員

・個人的な意見として、酒田市出身の吉野弘さんを中心にした企画展示室を作ってはどうか。静岡県富士市在住（富士市で吉野さんは亡くなった）のご家族のところに原稿や写真、絵などが多数ある。作品の行き所に関して、市長や教育部長のほうが詳しいとは思いますが、ご家族の話だと吉野さんは酒田にとっても愛着を持っており、酒田市へ作品を提供していただける気がする。

・レファレンスとディスプレイは従来の図書館機能の一つであって、蔵書関連の企画展示は、その中に含まれる。それとは別に、今回新設されるライブラリーセンターに、もう一つ自由な空間が作れるのであれば、漠然と酒田市ゆかりの文化人・有名人の、ということではなくて、酒田の風土性が生まれた詩人・吉野弘さんを中心とした記念室を作ってはどうか。市やファンからも、吉野さんの作品を大事にしたいという声を聞く。記念室があれば、直筆作品などの企画展示をしたり、作品を朗読して次の世代に伝えたり、合唱組曲を歌ったりなど、文学や音楽への興味につながり、多ジャンルの交流の場ともなる。鶴岡では藤沢周平記念館を独立した建物として作ったが、吉野さんのメモリアルのための場としては、詩集を含む著者の近く、すなわち図書館に隣接してあるのがふさわしいように思える。吉野弘さんを中心とした記念室があれば、酒田市出身以外の関連詩人や芸術家たちを含めた幅広い企画展示が実現できると思うし、酒田市独自の記念室が作れるのではないかと思う。

事務局

・ご家族からも蔵書提供の相談があった。市としても丸山市長が副市長時代に訪れている。大切に保管しながら貸出をしていきたいと考えている。また、未発表の作品の整理や取扱い等を含め検討していく。

委員

・資料6について、市が取得する酒田コミュニケーションポート（仮称）の購入金額27億円の財源の説明をお願いしたい。

事務局

・国からの補助金と、合併特例債を活用していきたい。

委員

・内訳をお聞きしたい。

事務局

・見込みはまだ立っていないが、想定しているのは事業費の3分の1を国から補助金としてもらえるメニューである。残りを95パーセント充当可能な合併特例債を財源として考えている。公共施設の取得時に支払うため、国等への補助申請はまだ先になる。

委員

・視察先であるオガールプロジェクト（紫波町の複合施設）は、酒田でも講演してもらっている岡崎さんが仕掛け人で、そこでは先にソフトが決まり、事業計画決定後に地元の銀行などに出資を募り、ハードの事業にとりかかる方法をとっている。ソフトを決めてから建てている。図書館の機能に限定した話であればいいのだが、まちづくり施設として運営していくのであればどのように収支をたてるかが重要。補助金などの関係で一部制約を受けることで仕方のない部分もあるのかもしれないが、そこは事業予定者選定の中できちんと審査してほしい。なお、再開発事業予定者の選定基準についてしっかり明示してほしい。

委員

・運営方法は気になっていたところ。事業者選定の審査委員は誰になっているのか。

事務局

・6月12日の公開プレゼンテーションでの審査委員については、建築関係2名、観光2名、会計関

係1名、酒田市内部の部長3名の計8名となっている。

(5) 現中央図書館、観光案内所等の現状と課題について（資料7～11に基づき事務局説明）

委員

・酒田市の未来を担う、一旦酒田を出て行っても帰ってくるような高校生の存在を作るために、興味を持ってもらいたい。

委員

・図書館部会飽海支部の会長でもあるのだが、文化センターの利用者が1名なのは残念。高校生からは、時間をつぶせるようなお店の要望が多い。読書の時間が多くなる手だてを考えたい。

委員

・資料7について、入館者数ではなく、実利用者数はどれくらいか。

事務局

・一人大体4、5冊借りているため、約11万6千人。図書カード登録者数は1万5千人ほど所有している。

委員

・仮に1万人が図書館機能を移転した施設でどれくらいお金を使ってくれるのかがわかれば、運営の核となるデータになるため、できれば年齢層も含め正確な数字を出していただきたい。

(6) 今後のスケジュール（案）、先進地視察について（資料12、13に基づき事務局説明）

委員長

・視察先は2か所でよろしいか。何かご意見あれば、後日でもいいので言ってもらいたい。

(7) その他

特になし。

7 閉 会（事務局）

以 上